

各地の農場には優秀な若手が勤務している。数ある職場のなかで、農場に勤めることを選んだ彼らは、農場や勤務先をどのように見つめ何を感じているのか。前回に引き続き、愛知県の養豚農場(有)マルミファームに勤める稲吉保氏と福井県のコメ生産メーカー(株)アースワークに勤める榎康伸氏の対談を紹介する。

稲吉 榎さんは、入社前から農業に興味があったんですか？

榎 今でこそ興味があるわけですが、入社以前は農業なんて考えもしませんでした。そもそも、アースワークに面接に来たときには農業をやるつもりじゃなかったんですよ。

稲吉 というと、どういう経緯で入社されたんですか？

榎 アルバイトで運転代行をしていた時期があったんですけど、ある日、お客さんとして助手席に座ったのが今の社長だったんです。その時に、どういうわけか「うちの会社に来い」と誘ってくれました。ただ、風貌からして、てっきり土木業者だと思いついてしまっただけで、結局、勘違いしたまま面接に行ってしまったんです。

稲吉 土木業のつもりだったのがいつの間にか農業の話になっていたわけですか(笑)。

# リレー訪問 農場に勤める 夢と誇り

第13回

## 社長の行き着く先が見たい

……の巻



今月のゲスト

## 稲吉 保 (44歳)

出身：愛知県幸田町

所属：(有)マルミファーム

雇用形態：社員

備考：1962年生まれ。高校卒業後トヨタグループ系のトヨタ工機(株)に勤務、工作機械の製造を担当。1983年、同社退社。1984年、アルバイトとして入社後、正社員に登用される。勤続22年目。現在、農場長。

榎 予想外のことで驚いたんですけど、体を動かす仕事もいいなというくらいの気持ちでしたし、社長はやるかどうかは自分で決めれば良い、来る者拒まず、去る者追わずといった感じでした。それなら、とにかくやってみようと思って入社することにしたんです。

稲吉 実際に仕事をしてみて、土木業にしておけば良かったというようなことはありませんでした？

榎 正直、最初は農業とはいっても土木業と特別違う仕事だとも思いませんでした。でも、今になってみると農業に感じているほどのやりがいは、おそらく土木業には見出せな

つただろうなと思います。受注した仕事を期間内に仕上げ、現場を点々とするというのは違って、農業は、たとえば、田んぼに関しては次第に特長をつかんでいける。だから、次はこうしてみようというように積み重ねていける面白さがあります。それに加えて、日々、やることやその条件が違うのも面白い点ですね。

**稲吉** 僕もそうだったところが農業の面白いところだと思います。

**榎** それでも、この農場が生産しかなない農場だったとしたら、ここまで続かなかつたかもしれません。販売も自らする農場だったからこそ、最終的に買ってくれた人の顔も見えない。これがあったから続けてこれれたんじゃないかと思います。それに、生意気な言い方かもしれませんが、買ってくれた人の中には、うちのコメのファンがいると同時に、営業した自分のファンもいるんですよ。その人の期待は裏切れないですし、そうした想いが続けていく上で力にもなりました。

**稲吉** 買ってくれた人が見えるところにいるというのは、作り手としては最高にやりがいがある仕事ですね。

**榎** さらにさかのぼって考えると、やはり社長がいたから、ここまで農業にのめり込んで、続けてこられたという部分もあります。好きなよ



うにやらせてくれて、その点も感謝しています。入社当初は、社長が何を言わんとしているのかがまるで理解できなかったんですが、現場での経験を積み重ねて、いろいろと指摘もされるうちに、社長に対する理解が深まっていったように思います。

**稲吉** 一度やらせてみて、経験させる中で教えようということだったかもしねえですね。

**榎** 口で説明されても反発するだけだったりもしますし、結局、社長が経験したようなことを自分自身で体験しないとわからないことも多いですからね。社長からの指示は二転三転することもあります。よくよく

考えると根本的な考え方はまったく揺らいでない。理解できる場所とできないところがありますが、こうして少しずつ社長の考え方を受け継いでいるのかもしれないです。

**稲吉** 僕の場合を振り返ってみても、用意されたハードルが高くてその瞬間は大変な思いをすることがあります。実は、社長はその都度、自分のレベルに合わせた指導をしてくれていたのかなと思うところもあります。

**榎** ここまできたら、社長が行き着くところと一緒にやって、その先に何かあるのか見てみたいですね。

**稲吉** 社長さんはどんなことをやり

今月のホスト

# 榎 康伸 (31歳)

**出身** 福井県大野市  
**所属** (株)アースワーク  
**経歴** 1975年生まれ。1993年、靴の小売を行なう(株)靴のマルチに入社、1995年から直営店の店長を務める。1997年、中古車の買取を行なう「ガリバー」に転職、1年間店長も務める。1999年、(株)アースワーク入社。生産から企画、営業までを担当。2006年4月からは取締役も務めている。

たいとおっしゃっているんですか？

**榎** 最近は海外に出て行きたいって言うんです。ウルグアイでコメを作りたいたって。

**稲吉** ウルグアイですか！

**榎** 海外で足りてない技術があれば提供したいっていう気持ちがあるんですけど、もつといいものができるはずだって言うんですね。日本と違って年に何作も作れますし。その辺りは特に羨ましがっています。

**稲吉** そういうことができる会社に従業員としてかかわれるのは面白いでしょうね。

**榎** 普通の農家さんだったらウルグアイに行こうなんてまず考えないで



仕事に取り組む姿勢や社長とのかかわり方など、想像以上に共通点が多い2人。「波長が合いますね」と、いつまでも話が尽きなかった。

すからね。ただ、農場を僕らに任せ  
ていけるような基盤を作ってからじ  
やないと社長は安心して出ていけな  
いそうなんです。僕ら自信もがんば  
らないといけないところなんですが  
……。

稲吉 そういえば、うちの社長もつ  
いこの間までは農場を空けられな  
かったんですよ。それまでは外から帰  
ってきたその足で、夜中だろうと早  
朝だろうと必ず農場をひと回りして  
あちこちチェックしていました。そ  
れが最近になってようやく、僕らに  
農場をまかせて3〜4日外出するよ  
うになりました。僕が思うに社長が  
常にいないといけない状態ってい  
うのは、それだけ心配なことがあるわ

けですから、あまりいい状態じゃな  
いんだと思います。

榎 たしかに、うちの社長も昔は毎  
日のように作業場に来てチェックし  
ていました。今言われたように、や  
っぱり心配なんですよ。うちは、  
事務所と作業場が離れていることも  
あって、会社が大きくなるにつれて  
社長が現場に出ることは少なくなっ  
てきました。その分、作業現場は僕  
らが注意して見ておかないと、とい  
う意識が変わってきましたね。

稲吉 まかされると、それがどんな  
仕事であれ、やらざるを得ないん  
ですよ。逆に、そこはやりがいを感じ  
るところもあるんですけど。とこ  
ろで、今はどういったことが課題に  
なっているんですか？

榎 まず、問題になっているのが宣  
伝力です。社内で勉強会を開いて、  
問題を課題化するということをや  
る中で、宣伝力の不足が見えてきま  
した。

稲吉 それは全国レベルで宣伝する  
上で、ということですか。

榎 はい。DMを出したりはしてい  
るんですが、見ている人がどれくら  
いるかっていったら、実質数%じゃ  
ないかと。新規顧客を開拓するため  
にも、どうやって認知してもらうか  
模索しているところです。最近、や  
っとメールマガジンを配信し始めま

した。それと、クレームで関係が途  
切れたお客さんもいるので、クレー  
ムノートというものを作って同じこ  
とをくり返さないように意識改革に  
も取り組んでいます。力を入れてや  
ってはいるんですが、そう簡単に改  
善できるわけでもなくて、なかなか  
難しいですね。

稲吉 どうやってたら商品に興味をも  
ってもらえるかというのは、相手の  
状況もあつてのことですし、難しそ  
うですね。このほかに、榎さんが考  
えていることもあるんですか？

榎 本来ロスになるはずのもので  
も、せっかく丹精こめて作った作物  
のひとつですし、どうにか商品化し  
て使っていけるようにしたいと思っ  
ています。例えば、色彩選別機では  
じかれたコメも精米すればまともな  
コメなんです。コメ粉にしてせん  
べいにもできれば、それはそれで  
利用価値は高いですし、自社で製造  
もできたら面白いんじゃないかと  
思っています。また、サトイモの加  
工品も扱っているんですが、その過  
程で使わない部分は通常捨ててしま  
う。これを使ってコンニャクやポテ  
トチップスのようなものを作れない  
か、といったことも考えています。  
こちらは、どんな可能性があるのか  
を知るために成分を分析してもらっ  
たりもしています。

稲吉 新しい作物を導入する前にで  
きることはいろいろあるんですね。

榎 新しいものを取り入れるのはい  
くらでもできると思うんです。その  
前に、使えるのに無駄になっている  
ものをいかに有効利用して、ロスを  
減らせるか。自分としては、これに  
力を入れてやっていきたい。

稲吉 そういったチャレンジ精神は  
僕にもありますが、実際、進めてい  
くとなるとなかなか難しいですよ  
ね。

榎 やらないといけないとわかって  
いても最初の一步が出ないというの  
はあります。でも、気が付かないだ  
けで実は改善できるところがまだま  
だあるはずなんです。そういった  
ところを一度、原点にかえるつもり  
で見直していこうと思います。

稲吉 社長さんが海外に出て行こう  
としていることを考えると、なおさ  
らですね。

榎 今は、社長に対する甘えも少し  
あって、正直、社長が長い間不在に  
することへの不安はあるんです。社  
長は海外に行ったら行ったで、すぐ  
帰ってきそうな気もするんですけど  
(笑)。でも、いずれ社長が海外に出  
て行くつもりでいるなら、その時は  
安心して出て行けるようにしたい。  
そのためにもまず、会社のことをき  
つちりさせていきたいです。